

コロナ禍における『修学旅行支援事業』!!

令和4年3月16日に開かれた福岡県議会予算特別委員会で、みやま市選出の板橋聡議員（自民党県議団）は、「コロナ禍における就学旅行支援」について福岡県の執行部に質されました。



新型コロナウイルス発生直後の『令和2年6月議会一般質問』で、「感染拡大防止の名のもとに、修学旅行が中止に追い込まれることを危惧し、県内の学校が県内を目的とする修学旅行を提案して、当時の小川知事から身近な県内で修学旅行を行い、県内の魅力を再発見することは意義がある。」と賛同をいただき、前向きに修学旅行支援事業に取り組んでいただいたと認識しています。

【質問1 就学旅行支援事業の実績について】

【観光振興課長】

県外の学校を対象にしていた修学旅行支援金の対象を、昨年度、県内の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校などに対象を拡大しました。

また、30のモデルコースと190施設の素材リストを作成し、県内の対象となるすべての学校、旅行会社へ提案をしました。

その結果、令和2年度は178校の1万4485人、令和3年度は296校の2万5634人となっています。令和2年度及び令和3年度の合計は、474校、4万119人、バス1948台となっており、その内訳は、県内460校、県外14校、宿泊が1万9425人、日帰りが2万694人の支援となっています。

【質問2 県内学校が県内を目的とする修学旅行では、訪問先にどんな特徴があったのか？】

【観光振興課長】

支援事業を活用した学校では、平和の大切さを学ぶ大刀洗平和記念館や学問の神様、菅原道真公を祀る太宰府天満宮、近代化の歴史を学ぶ門司港レトロなどが人気の訪問先となっているほか、柳川市の海苔づくり体験や八女市の手すき和紙体験など、体験型の施設も選ばれています。

【質問3 県としてSDGsの学びがあらゆる市町村でできるよう体制整備を行ったら？】

【観光振興課長】

SDGsに取り組んでいる北九州市では、SDGsの理解を深め、探求的な学びにつなげるための事前学習や事後学習のワークシート等の準備や、フィールドワークに必要な現地ガイド等の体制の整備を進めています。

県内の市町村でSDGsの学習ができますよう、取り組みを進める市町村に対して、SDGsの学びに関する情報提供やアドバイスを行い、受け入れ体制の整備を働きかけて参りたいと思います。

【質問4 ワンヘルスの視点で、修学旅行誘致に力を入れるべきと考えますが・・・】

【観光振興課長】

ワンヘルスを組み込んだ修学旅行は、本県ならではの価値の高い修学旅行になるものと考えています。

そのため、ワンヘルスの森や、今後整備を目指すとしておりますワンヘルスセンターといったワンヘルス関連施設についても、修学旅行のモデルコースに組み込めるよう庁内の関係部署と連携をするとともに、関東圏や関西圏の旅行会社や学校関係者を招聘したモニターツアーの開催を検討して参ります。

【質問5 ワンヘルスを、大人の視察向け観光素材としてPRすべきと思いますが・・・】

【観光振興課長】

ワンヘルスやSDGsが学べる本県の特徴的な観光素材は、大人向けにも有意義であるものと考えられます。そのため、県の観光サイト、クロスロードふくおかにおいて、一般の方にも興味を持ってもらえるよう、ワンヘルスやSDGsの関連施設やモデルコースを広く紹介して参ります。

【質問6 ウイズコロナ期の観光施策について】

【商工部長】

修学旅行の誘致については、コロナ禍で深刻な影響を受けている観光産業に対する誘客支援という点、また子どもたちが県の魅力を再発見するという点でも大変意義があると考えています。

全国から本県を修学旅行先として選んでいただくためには、他県との差別化、特徴的なものを取り入れていくという視点が大事だと考えています。

このため、バス代の助成といった直接的な支援だけではなく、モデルコースの造成、とりわけ今後の需要が高まる、SDGsの学びができる修学旅行のコースづくりに取り組むことを考えています。また、大人向けにもこういう魅力の発信というのも重要だと考えています。

今後は、ワンヘルスの取り組みという他県にはない新たなPRポイントも生まれます。

多くの学校、また大人も含めまして、多くの方々に来ていただけるよう、関係部署と連携して、受入環境の整備、そして福岡県の魅力のアピール等にしっかりと取り組んで参ります。

2022年3月26日

福岡ワンヘルス協議会・事務局